

Peter Piot (ピーター ピオット)

- 1974-1981年 熱帯医学研究所 (ベルギー) 微生物免疫学部
- 1981-1992年 熱帯医学研究所 (ベルギー) 微生物免疫学部教授
- 1978-1979年 Washington 大学 (米国シアトル) シニアフェロー (感染症)
- 1986-1987年 Nairobi 大学 (ケニア) 微生物医学 助教授
- 1987-1991年 Nairobi 大学 (ケニア) 微生物医学客員教授
- 1991-1994年 エイズ・プロジェクト (コンゴ (民) ・キンシャサ) 共同主任研究員
- 1992-1994年 世界保健機関 (WHO) 世界エイズ戦略副ダイレクター
- 1995-2008年 国連エイズ合同計画 (UNAIDS) 事務局長
- 2009年 ビル&メリンダ・ゲイツ財団シニアフェロー
- 2009-2010年 インペリアル・カレッジ・ロンドン教授
- 2010年9月 ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院学長



◆教育活動の実績

ピオット博士は、アフリカ各地の現場での研究と国際的な政策立案の双方に携わる類い稀な人物であり、科学的発見や見識を、世界中の人々、とりわけアフリカの人々のために役立ててきた。ピオット博士は、1976年にアントワープの熱帯医学研究所で研究を開始し、疫学、ウイルス学及びアフリカで破滅的なインパクトをもたらしている疾病の臨床分析に惜しみなく情熱を注ぎ、アフリカ大陸全体での研究と医学関係者の養成に献身した。

◆研究活動の実績

常に活動の拠点をアフリカに置き、近年のアフリカにおいて最も致死率の高い二つの感染症である HIV/エイズとエボラ出血熱をはじめとして、クラミジア、結核及び淋病を含む、アフリカ大陸の多くの地域に存在する疾病についての中心的な研究を行った。

ピオット博士は1976年にザイール (現コンゴ民主共和国) でエボラ出血熱を発見したチームの一員であり、アフリカにおける異性間の性交渉による HIV の感染と小児のエイズ感染、またアフリカにおける HIV の感染と結核との関連の存在を確認した最初のグループの一人でもある。ピオット博士は傑出した科学的な論文の発表と国際場裡での精力的な役割を通して、HIV の大流行に対する地球的規模での注意と関心を惹起し、HIV の大流行に対する資金調達やコントロールへの国際的な関与を高め、HIV のコントロールと処方に対し科学的に根拠のある対応をした。

◆社会活動の実績

- 1995年 ベルギー・アルバート2世国王により男爵位を授与
- 1996年 ベルギー王立医学アカデミー会員
- 2000年 米国国立科学アカデミー医学研究所外国人会員
- 2002年 ベルギー国立科学アカデミー金賞受賞
- 2010年 フランス国立医学アカデミー会員
- 2011年 イギリス医学アカデミー会員

岩本愛吉

日本医療研究開発機構（AMED）戦略推進部長、
東京大学名誉教授



1974年9月東京大学医学部卒業

1982年5月東京大学医学部助手

1984年8月オンタリオ癌研究所研究員

1989年10月 東京大学医学部講師

1991年6月東京大学医学部助教授

1994年11月 東京大学医科学研究所教授

2003年9月東京大学医科学研究所附属病院病院長（2006年8月まで）

2004年4月国立大学法人東京大学医科学研究所教授

〔主な専門分野〕

HIV感染症，感染症内科学，ウイルス学

〔主な学会活動歴〕

日本感染症学会（理事長）日本エイズ学会（前理事長，2010年度会長）日本ウイルス学会（元理事，元学会誌編集委員長）日本性感染症学会（理事）日本バイオセーフティー学会（元理事）化学療法学会（評議員）

1974年東京大学医学部医学科卒業、1977年東京大学医学部第一内科学教室入局。1984より3年間のカナダ留学後、東京大学医学部講師、助教授を経て、1994年東京大学医科学研究所教授、2003-2006年東京大学医科学研究所附属病院長。2015年定年退職後、同年に設立された日本医療研究開発機構（AMED）の科学技術顧問に就任、2017年4月より現職。国内外のエイズ対策に尽力、厚生労働省のエイズ動向委員会委員長（2005-2017年）、国際エイズ学会のアジア太平洋地区理事（2006-2014年）、日米医学協力委員会日本側委員長（2013-2017年）等を歴任。2005-2015年には、中国科学院と東京大学の新興・再興感染症に関する共同研究を研究代表者として推進した。

John Edmunds (ジョン エドモンズ)



PROFESSOR OF EPIDEMIOLOGY, EPH, LSHTM (2008-);

- 2012 – 2019 Dean of Department of Infectious Disease
Epidemiology, London School of Hygiene and
Tropical Medicine
- 2010 – 2012 Head of Department of Infectious Disease Epidemiology, London School of
Hygiene and Tropical Medicine
- 2003 – 2008 Head of Modelling and Economics Unit, Health Protection Agency Centre for
Infections
- 2000 – 2003: Research Fellow, Department of Economics, City University
- 1994 – 2000 Research Associate, Department of Biological Sciences, University of Warwick

◆研究活動の実績

Research interests focus on the rational design of control programmes against infectious diseases. The work involves a combination of data analysis, estimation of the burden of disease, the development and application of mathematical models of disease spread, and the integration of these with economic models to help inform decision-making. Emphasis is placed on the application of these methods to real-world problems to enable decision-makers to optimise the design of public health control programmes.

◆社会活動の実績

Member of various WHO committees, various UK government Advisory Groups, Wellcome Trust Expert Review Group, European Centre for Disease Prevention and Control (ECDC) Expert Advisory Group, NHS Cervical Screening Programme HPV Screening Working Group on Cost-Effectiveness; Invited Expert on National Institute of Clinical Excellence (NICE) Public Health Interventions Advisory Committee (PHIAC) 2008-2009; Acted as a Technical Advisor to the World Health Organisation on issues ranging from measles control to pandemic influenza vaccination; · Associate editor of the following journals: Epidemics, BMC Public Health, Human Vaccines; Medical Decision Making, Population Health Metrics, Emerging Themes in Epidemiology etc

西浦 博 (にしうら ひろし)

2020 年度：京都大学，医学研究科，教授
2017 年度 - 2020 年度：北海道大学，医学研究院，教授
2016 年度：北海道大学，医学(系)研究科(研究院)，教授
2016 年度：北海道大学，医学研究科，教授
2014 年度 - 2015 年度：東京大学，医学(系)研究科(研究院)，准教授
2007 年度：長崎大学，熱帯医学研究所，准教授
2006 年度：長崎大学，熱帯医学研究所，助教授



衛生学は主に環境・外的要因に着目した健康と疾病の問題を取り扱う学問で、歴史的には感染症の発見および制御とともに学問的發展を遂げてきました。当分野では、主に感染症を対象として研究と教育を担当しています。数理モデルおよび統計モデルを利用した感染症自然史等の推定や感染ダイナミクスの解明、流行対策の評価および流行予測の実現などを細目分野として、感染症の理論疫学（数理疫学）をコモンズレッドにした分野です。アウトブレイク調査やサーベイランス、新規モデリング技術開発、人口学研究にも取り組んでいます。

大曲 貴夫 (おおまがり のりお)

2017 年 国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター長、総合感染症科科長
2012 年 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター センター長
2012 年 国立国際医療研究センター病院 国際疾病センター センター長
2011 年 国立国際医療研究センター 国際疾病センター 副センター長
2010 年 静岡がんセンター 感染症内科 部長（部署名変更にて）
2007 年 静岡がんセンター 感染症科 部長
2004 年 静岡がんセンター 感染症科 医長
2002 年 The University of Texas-Houston Medical School 感染症科
聖路加国際病院 内科 レジデント
佐賀医科大学 医学部医学科 卒業



1997 年 佐賀医科大学（現：佐賀大学）医学部医学科卒業。聖路加国際病院内科レジデント。2002 年より渡米、The University of Texas-Houston Medical School 感染症科。04 年より静岡県立静岡がんセンター感染症科医長、07 年同部長。11 年より国立国際医療研究センター病院国際疾病センター副センター長、12 年同センター長。12 年より国立国際医療研究センター病院国際感染症センターセンター長。

河野 茂 (こうの しげる)

昭和 49 年 6 月 長崎大学医学部附属病院
昭和 49 年 10 月 佐世保市立総合病院
昭和 50 年 2 月 長崎大学医学部附属病院
昭和 51 年 4 月 大学院在学
昭和 55 年 4 月 長崎大学助手 (医学部)
昭和 56 年 4 月 ニューメキシコ州立大学医学部研究講師
昭和 57 年 7 月 長崎大学医学部附属病院
昭和 58 年 4 月 佐世保市立総合病院
昭和 59 年 4 月 長崎市立病院成人病センター
昭和 60 年 6 月 長崎大学助手 (医学部)
昭和 61 年 12 月 長崎大学助手 (医学部附属病院)
平成 2 年 5 月 長崎大学講師 (医学部)
平成 8 年 2 月 長崎大学教授 (医学部)
平成 12 年 4 月 長崎大学教授 (医学研究科)
平成 14 年 4 月 長崎大学教授 (医歯薬学総合研究科)
平成 18 年 4 月 国立大学法人長崎大学医学部長
平成 21 年 4 月 国立大学法人長崎大学理事・病院長
平成 26 年 10 月 国立大学法人長崎大学理事・副学長
平成 29 年 10 月 国立大学法人長崎大学長



略歴

74 年 3 月長崎大学医学部卒業、同大学医学部附属病院第二内科入局。80 年同大学大学院 (病理学) 卒業後、82 年まで米国ニューメキシコ州立大学医学部病理学教室に留学。帰国後、長崎大学医学部附属病院に戻り、佐世保市立総合病院、長崎市立病院成人病センターでの勤務を経て、85 年長崎大学医学部助手、90 年講師、96 年教授となる。2000 年同大学大学院医学研究科感染分子病態学講座教授。06 年長崎大学医学部長、09 年理事・病院長、14 年理事・副学長を歴任し、17 年 10 月より現職。専門は呼吸器感染症

北 潔 (きた きよし)

長崎大学大学院 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 研究科長・教授
長崎大学熱帯医学研究所 宿主病態解析部門 感染生化学 教授
東京大学 名誉教授



略歴

1974年東京大学薬学部卒業、薬学系 研究科博士課程修了、同理学部助手。順天堂大学医学部助手、講師。助手として在職中に JICA パラグアイ国厚生省中央研究所プロジェクトチームリーダーに従事。1991年より東京大学医科学研究所助教授、1998年より東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻生物医化学教室教授、2015年より長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科研究科長・教授、現在に至る。

有吉紅也 (ありよし こうや)

長崎大学熱帯医学研究所臨床感染症学分野教授
長崎大学病院感染症内科（熱研内科）科長
長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科副研究科長



略歴

1986年旭川医科大学卒。アフリカでの医療を目指しロンドン大学留学、ジンバブエで研修医。1990年英国のセントメリー病院研究員。1992年より西アフリカの英国 MRC 研究所にてエイズ研究。1998年国立感染症研究所に赴任。在職中の4年間は JICA 専門家としてタイでエイズ研究と教育に従事。2005年長崎大学教授就任後は、ベトナム、フィリピン、日本での感染症研究を推進、長崎大学病院にて感染症内科診療にも従事。2015年よりロンドン大学客員教授。

Christopher Smith (クリストファー スミス)



- 2017 – 現在 London School of Hygiene and Tropical Medicine Faculty of Infectious and Tropical Diseases Associate Professor
- 2017 – 現在 長崎大学 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授
- 2016 – 2017 London School of Hygiene and Tropical Medicine 助教
- 2012 – 2017 Imperial College London Department of Primary Care and Public Health Honorary Clinical Research Fellow
- 2014 – 2016 London School of Hygiene and Tropical Medicine Clinical Research Fellow Population Health Scientist
- 2012 – 2014 Marie Stopes International Cambodia Lead Investigator MOBILE Technology for Improved Family Planning (MOTIF) project
- 2009 – 2014 General Practitioner, Portsmouth, UK
- 2010 – 2012 Imperial College London National Institute of Health Research (NIHR) In-Practice Fellow
- 2008 – 2009 Maddox Jolie-Pitt Foundation and NHS South Central SHA, International Fellow to the ‘Improving Global Health through Leadership Development’ scheme in Cambodia

本件に関する問い合わせ先

長崎大学生命医科学域・研究所等支援課

卓越大学院シンポジウム担当

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号 グローバルヘルス総合研究棟

TEL : 095-819-7583

HP : <https://iscgh.jp/>

Email : contact@iscgh.jp
